



生活協同組合

あいコープみやぎ

2016年10月改定

放射能自主測定活動

あいコープみやぎは、自主的なモニタリングをすることで、放射能汚染の実態をつかみ、組合員の安全の確保を目指します。モニタリング結果は原則として情報公開することで、組合員の安心を高めます。

新規取り扱い商品など

①一次モニタリング

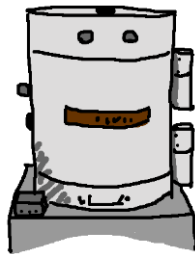


検出限界
核種ごと 5~10Bq/kg 程度

測定機器
NaI シンチレーション測定器
または
ゲルマニウム半導体測定器

過去の測定で汚染があったものなど
精密検査が必要だと判断されたもの
および、自主基準が 10Bq/kg のもの

②精密検査



検出限界
核種ごと 1Bq/kg 程度

測定機器
ゲルマニウム半導体測定器

製品・原材料
生産資材など

③生産者の測定



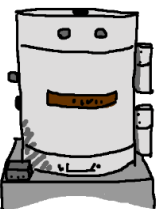
検査機関

検出限界 概ね核種ごと 1~20Bq/kg 程度

一次モニタリング値が
汚染の目安を超えたもの (※)

供給を一旦停止して

④二次モニタリング



※概ね 10Bq/kg 検出を「汚染の疑い」の目安とします。

検出限界
核種ごと 1Bq/kg 程度

測定機器
ゲルマニウム半導体測定器

生活協同組合
あいコープみやぎ

測定結果はすべて公開

- 自主基準を超えたものが見つければ、ただちに供給を停止します。
- 測定結果をホームページ等で公表します。



あいコープの商品は、「どこで」・「だれが」・「どのように」作ったかが明らかです。指標値を超えたものについてすぐに対応が可能です。



あいコープに
結果を報告

商品だけでなく、土壌・餌・原材料など、生育や製造環境の把握に努めています。

あいコープみやぎは、自主的なモニタリングをすることで放射能汚染の実態をつかみ、組合員の安全の確保を目指します。モニタリング結果は原則として情報公開することで、組合員の安心を高めます。

同時に、あいコープみやぎは「地産地消」を堅持し、風評被害を抑止し、東北の農畜産業・水産業を守る立場に立ちます。そのためには、十分なモニタリング体制の構築と正直な情報公開が不可欠であると考えています。

あいコープ「自主基準」に基づいて 供給可否を判定します

あいコープみやぎは、国の基準よりさらに厳しい「自主基準」を運用しています。

単位: Bq/kg

あいコープみやぎ自主基準値		国の基準値	
飲料水(*1)・牛乳 米・乳児用食品	10	飲料水	10
		牛乳・乳児用食品	50
一般食品(*2)	25	一般食品	100

- *1 あいコープでは、飲料水、牛乳については検査機関に依頼し、<1Bq/kgの精度で定期的に検査します。
- *2 あいコープでは、茶葉、乾燥きのこ類、乾燥海藻類、乾燥魚介類、乾燥野菜等については、飲む状態・食べる状態ではなく、乾燥状態で自主基準を適用します。

あいコープみやぎは「放射能には閾値(これ以下なら安全という値)はない」と考えており、「自主基準以下なら安全」とは考えていません。長年にわたる低線量被曝の影響が解明されていない中では、「食品による内部被曝は可能な限り少なくする」立場に立つべきと考えています。

生産者と協力して食品の放射能汚染の実態を把握し、汚染の回避と低減のための対策を実施すると共に、新しい知見やデータを集めるなど、今後も積極的に取り組んでまいります。

食品による内部被曝を 可能な限り少なくするために

あいコープみやぎでは食品の特性を考慮しながら、生産者とともに下記のような放射能対策に取り組み、モニタリング体制を作っています。

【商品の測定】

取扱商品を1~3のいずれかで測定をおこない、結果を公開します。

1. 一次モニタリング … (☑ ①)
2. 精密検査 … (☑ ②・④)
3. 生産者側で測定(結果を報告してもらう) … (☑ ③)

【生育環境・原材料の把握】

製品の検査だけでなく、畜産であれば餌、農産であれば土壌、加工品であれば原材料の測定など、生育や製造環境の把握に努めています。



米・青果

宮城を中心に、山形、福島、茨城の産直産地の田んぼや畑の土壌を検査し、作付け・栽培に問題がないことを確認しています。さらに静岡以北の初出荷前の農作物を検査し、自主基準以下であることを確認しお届けしています。まんま通信には産地の道府県表示を行なうなど情報開示に努めています。



酪農・畜産製品

給与している飼料、水を検査して汚染されているものは与えず、畜舎や放牧場の土壌を検査して低減対策を取り、さらに商品の検査を実施し自主基準以下であることを確認したうえでお届けしています。



加工品

あいコープ開発商品(PB商品)については、主原料までさかのぼって検査を実施します。例えば、菅野食品の豆腐、わたり納豆の納豆、鎌田醤油の味噌・醤油の原料大豆はすべて放射能検査を行ない、10Bq/kg以下を確認した上で原料として使用します。その他の加工品についても、加工年月、加工場所、使用原材料等を確認し、商品の検査を実施し自主基準以下であることを確認した上でお届けします。



水産品

生産者との連携を強化し、漁獲海域や漁獲年月がトレースできる体制を作っています。漁獲ロットごとの検査を行ない自主基準以下であることを確認しお届けします。三陸沖~房総沖で漁獲された注意魚種(*)については、検査頻度を上げています。漁獲海域はまんま通信に表示します。

(*)注意魚種：厚生労働省及び各自治体が公表する2014年3月までの検査のなかで、あいコープ自主基準を超える放射性セシウムが検出された魚種のうち、あいコープでの取り扱いがある64魚種。

※詳細・最新情報は、ホームページをご覧ください。
 (HP「よくある質問 Q&A」に詳細な説明が掲載されています。)